

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000250		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウス東名ながくて 1F		
所在地	愛知県長久手市平池406		
自己評価作成日	令和4年9月7日	評価結果市町村受理日	令和4年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2375000250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2375000250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和4年10月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者同士で声を掛け合い、できないところを手伝ったり、助け合って暮らしています。性別に関係なく、その日の気分や体調などで代わるがわるできる人がみんなで家事に取り組み、スタッフは利用者主体を念頭に一緒に寄り添いながら見守りをしています。  
スタッフも交え、歌をうたったり、冗談を言い合い、いつもにぎやかな笑い声が聞こえています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関脇に理念を掲示しており、常に意識するよう努めている。また、全体会議でも度々議題となっており、全職員への浸透を図っている。日々の支援が理念に添ったものとなっているか、職員同士で確認し合い、不安な時は管理者も含め話し合い、皆で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前に参加していた行事が中止となったり、開催されている行事にもコロナの情勢を鑑みて参加できない状況が続いている。しかし、日常の買い物や外出などを通じ、できる範囲の交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン活動の中断や、市主催の見学ツアーの中止が続いており、機会がなくなっている。その中でも電話での相談や問い合わせ等の折には積極的に発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの情勢を考慮しつつ、できる限り対面での会議を行い、報告や意見交換を行っている。開催できない月は電話やFAXで報告を行い、情報やアドバイスをもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への参加があり、事業所の実情はよく理解して頂いている。コロナ禍の折、状況やワクチン接種の広報・確認などで電話もあり、相談したりアドバイスを受けている。また、生活保護の係からの訪問や問い合わせ等もあり、市役所とは相談しやすい関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を掲示し、周知を図っている。分科会では個別の案件を取り上げ、具体的に話し合い、理解を深めてもらっている。日常の支援の中では、スピーチロックも含めて振り返り、拘束にあたらぬかを職員同士で注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	分科会で具体的な案件について話し合い、それぞれの考え方を知った上で意見交換し、理解を深めている。利用者さんのささいな一言にも注意を払い、見過ごされることのないよう努め、見過ごした職員も当事者と同じであるという意識を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるケースは入居時に関係者と話し合い、活用している。個々のケースに対応することで学ぶ機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学や面談を行い、ホームの雰囲気や生活の様子などもみてもらっている。本人のホームでの生活が想像して頂けるよう、理念や支援の方針を丁寧に説明し、不安の解消を図っている。改定時は個別に説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日常の会話の中で要望を聞き取り、実現に努めている。また、家族とは訪問時等の雑談などを通じ意見の言いやすい関係作りに努め、要望等を聞き取っている。それを基に法人も含め家族と意見交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の会議で職員が意見を述べる機会がある。職員・管理者・法人それぞれが必要を感じた時に随時面談を行い、意見を言いやすい環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や努力・能力に対し昇給や賞与、昇格等で評価している。キャリアパス要件の開示や全体会議で法人の求める社員像を説明することにより、目標を持って働ける環境がある。また、有給の取得を法人が積極的に促し、職員のモチベーションアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に導入研修を行っている。実際の業務の中では具体的に指導し、育成を図っている。全体会議でも、理念や支援について議題にあげ、学び、全職員で考え方を共有している。また、経験や能力に応じ、社内外の研修に参加の機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入し、全国の同業者との交流の機会を設けている。また、市内の同業者とは困難事案を相談しあったり、意見交換をしている。相互訪問や運営推進会議への参加の提案もあるが、コロナ禍のため延期となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に見学してもらい、利用者と一緒に過ごしてもらったり、ホームでどんな生活を望んでいるのかを聞き取り、安心して入所して頂けるよう努めている。入所間もなくは職員が他利用者との間を仲介したり、常に寄り添い不安な気持ちを聞き、できるだけ本人の要望に応え、本人が安心できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所の相談の際、その時に家族が困っていることや、本人・家族が望む生活の形、入所に対しての不安などを聞き、それをホームの生活に反映できるよう支援方法の提案や意見交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談や見学の折、本人や家族の求めている支援や生活のあり方を確認し、他の施設やサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活を支援することを念頭に、職員はサポートにまわり、一緒に活動をしている。利用者が他利用者の見守りをしたり、家事のコツについて職員にアドバイスする姿が日常的に見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状や希望を家族に伝え、本人が望む生活を送るための意見交換を行っている。外出や一時帰宅、嗜好品の差し入れなど、家族の協力を仰ぎ、コロナ禍で訪問が難しい時は、電話をするなど、本人の気持ちの拠り所となってもらい、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況をみながら、兄弟、親戚や知人の訪問、電話などがある。今まで住んでいた場所やスーパーなどへ出かける利用者もいる。また、入所して知り合った他事業所の利用者とは法人の行事や相互訪問などで関係を繋いでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が相互に居室を訪問し交流する姿がある。また、本人のできないことを、他利用者が自発的に手伝われたり、声をかけたりしている。職員は交流の輪が広げられるよう仲介する等、環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退出前に、移行するサービス事業所と電話で打ち合わせたり、情報提供書のやりとりを行い、スムーズな移行に努めている。ただし、この一年は他事業所への転所はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関りの中で、本人の思いを知り、職員間で情報共有することで希望に添った支援ができるよう努めている。また、希望の表出が困難な場合は、これまでの生活や希望をもとに、本人の思いを推し量っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談の際に、本人や家族から聞き取りを行っている。また、入所後はスタッフ一人ひとりが本人との関りの中で話を聞き、それを職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが、利用者の現状を把握し、日報に記録すると共に、変化の見られた時は、申し送りノート、ヒヤリハット、口頭などで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を把握し、家族にも意見を仰いであうで、それに添った生活が送れるよう、法人・職員が話し合い、時には主治医の意見も聞きながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報を作成し、本人の一日の様子を記録している。状態変化があった時は、日報に記録するとともに、連絡ノート、口頭連絡等で情報の共有を図っている。そのうえで、支援方法の変更や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況に合わせ、買い物や外出等に対応している。また、希望に応じて、訪問歯科や理美容の利用ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに地域住民の為に施設である共生ステーションや保育園などがあり、散歩を通じて近所に高齢者グループホームがあることを知ってもらったり、スーパー、コンビニでは買い物を通して利用者への理解を深めてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に当施設に協力医があることと、今までのかかりつけ医に継続してかかることも可能であることを説明している。現在は、全員が協力医の往診を受けている。必要な時は、専門医の受診にも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態やその変化について相談し、アドバイスを受けている。そのうえで必要があれば、協力医の往診をうけたり、専門医を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に対して情報提供を行っている。病状について家族から情報を得るとともに、退院の見通しについて直接病院関係者ともやり取りし、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の支援のあり方や出来ない事を説明している。日々の状態を随時家族に伝え、変化が見られた時は、早期に説明を行っている。実際に重度化した場合は、家族や主治医を交えて話し合い、方針を決定している。その後は、家族と連絡を密にし、状態変化のみられる都度、本人や家族の意向を確認し、支援のあり方を決定し、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備え、各自が把握に努め、職員同士で確認し合っている。実際に起こる事が考えられる事案に関しては、その時々に対応策を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、職員の動きを確認するとともに、自立度の高い利用者は自ら避難できるよう、動線や避難場所の確認をしている。地域の訓練が行われる際は、利用者と共に参加し、地域の方々に事業所を認識してもらう機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援の都度、それぞれが理解できる言葉を選び、意思の確認を行い、了承を得てから支援にあたっている。また、プライバシーの軽視は虐待であるという観念を持ち、職員間で注意し合いながら保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明と同意を基本とし、本人が話しやすい雰囲気作りや、それぞれにあった、自己決定しやすい聞き方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの基本的な生活スタイルを把握したうえで、その日の体調や気分を考慮し、できるだけ本人の希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりを大切に、服装や髪型などを本人が選択できるように、選択方法や声かけを工夫している。髭剃りを失念していたり、髪型が乱れているときは、鏡の前に誘い、本人が気付けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段はある程度食材が決まっているものの、それを使ってどのようなメニューにするか、利用者とスタッフが一緒に考え、一緒に調理を行っている。同じような食材でも、味を変えたり、調理方法を変えるなど工夫してメニューに変化をもたせている。日、月曜日は決まった食材がない為、希望のメニューを聞き、食材の買い出しをしたり、店頭で食材を選んでからメニューを決める時もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に食事量や水分量を記録し、把握している。食事量が低下している時は、形態や食材、味付け等の見直しを行い、摂取量の確保に努めている。また、水分については、本人の好みに合わせ提供する物を変えたり、温度を変えたりし、確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨きや義歯洗浄を促している。本人の力では十分に行えない時は、職員が手伝っている。特に寝る前の口腔ケアは念入りに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄間隔や、尿意・便意の有無を把握し、トイレに誘導したり、声掛けしたりしている。日中は全員がトイレでの排泄ができており、夜間は本人の歩行や排泄までの時間を考慮し、ポータブルトイレの使用をしている人もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着きがなくなったり、気分が落ち込む利用者もあり、水分量の確保やバランスのとれた献立、ヨーグルトの摂取など、予防に努めている。また、牛乳や冷水など、本人の体に合った対策を行ったり、かかりつけ医と相談し、本人にあった薬の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人から、日時や介助者について希望のあったときは希望に添った支援に努めている。拒否のある利用者については、「今日か明日か」「午前か午後か」等、本人が選択できる環境を作り、納得したうえで入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の表情や体の状態をみて、休息を促している。夜間、安眠できるよう、日向ぼっこや散歩、家事など、日中の活動を促し、居室の照明や室温等、それぞれに合わせて環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をスタッフルームに置き、職員が見ることができる。変更があった時は、申し送りノートでも情報を共有し、その後の変化を把握できるようにしている。服薬は職員二人でも見守り、利用者それぞれに適した方法で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活の一員として居場所を感じられるよう努めている。好みの嗜好品を楽しんだり、歌を歌ったり、散歩が好きな人は近所を歩くなど、それぞれが思い思いの形で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前まで参加していた体操教室や地域行事は、中止されている等の理由から、まだ参加できない状況が続いているが、日常的にはコロナの情勢をみて、買い物や散歩などに出かけている。また、コロナの感染状況が一時落ち着いた時には、京都や居酒屋、ケーキバイキングなど、好みに合わせて外出することができた。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、お小遣いを預かり、買い物や喫茶店等に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかきたい人の電話番号を持ち、好きな時にかけている。また、家族がハガキを用意し、親族や友人とやり取りをしている人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、少しでも広く感じられるよう、家具は低めにしている。季節が感じられるよう、敷地内で咲いた花を飾ったり、写真を掲示して和やかな雰囲気作りをしている。汚れた時は、その都度掃除し、清潔維持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子が所々に置いてあり、好きな場所で自由に過ごすことができる。ユニットを問わず行き来でき、気の合う利用者同士、好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を置き、家族の写真やポスターを飾るなど、本人が落ち着いて過ごせるよう部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりを設置し、居室内は動線を考えて家具を配置することで、本人が今ある能力を活かして生活できる環境作りをしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375000250		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウス東名ながくて 2F		
所在地	愛知県長久手市平池406		
自己評価作成日	令和4年9月7日	評価結果市町村受理日	令和4年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2375000250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2375000250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和4年10月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

年齢の幅や介護度の差がありつつも、皆で一緒にお茶の時間を楽しまれたり、レクリエーションをされたりしています。

スタッフは、家事が一部の人に偏り、負担とならないよう声をかけ、利用者それぞれが役割を持てるよう取り組んでいます。利用者が利用者を頼りにしたり、気持ちの拠り所となる関係性を持ち、助け合って暮らしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関脇に理念を掲示しており、常に意識するよう努めている。また、全体会議でも度々議題となっており、全職員への浸透を図っている。日々の支援が理念に添ったものとなっているか、職員同士で確認し合い、不安な時は管理者も含め話し合い、皆で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前に参加していた行事が中止となったり、開催されている行事にもコロナの情勢を鑑みて参加できない状況が続いている。しかし、日常の買い物や外出などを通じ、できる範囲の交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン活動の中断や、市主催の見学ツアーの中止が続いており、機会がなくなっている。その中でも電話での相談や問い合わせ等の折には積極的に発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの情勢を考慮しつつ、できる限り対面での会議を行い、報告や意見交換を行っている。開催できない月は電話やFAXで報告を行い、情報やアドバイスをもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への参加があり、事業所の実情はよく理解して頂いている。コロナ禍の折、状況やワクチン接種の広報・確認などで電話もあり、相談したりアドバイスを受けている。また、生活保護の係からの訪問や問い合わせ等もあり、市役所とは相談しやすい関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を掲示し、周知を図っている。分科会では個別の案件を取り上げ、具体的に話し合い、理解を深めてもらっている。日常の支援の中では、スピーチロックも含めて振り返り、拘束にあたらぬかを職員同士で注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	分科会で具体的な案件について話し合い、それぞれの考え方を知った上で意見交換し、理解を深めている。利用者さんのささいな一言にも注意を払い、見過ごされることのないよう努め、見過ごした職員も当事者と同じであるという意識を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるケースは入居時に関係者と話し合い、活用している。個々のケースに対応することで学ぶ機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学や面談を行い、ホームの雰囲気や生活の様子などもみてもらっている。本人のホームでの生活が想像して頂けるよう、理念や支援の方針を丁寧に説明し、不安の解消を図っている。 改定時は個別に説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日常の会話の中で要望を聞き取り、実現に努めている。また、家族とは訪問時等の雑談などを通じ意見の言いやすい関係作りに努め、要望等を聞き取っている。それを基に法人も含め家族と意見交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の会議で職員が意見を述べる機会がある。職員・管理者・法人それぞれが必要を感じた時に随時面談を行い、意見を言いやすい環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や努力・能力に対し昇給や賞与、昇格等で評価している。キャリアパス要件の開示や全体会議で法人の求める社員像を説明することにより、目標を持って働ける環境がある。また、有給の取得を法人が積極的に促し、職員のモチベーションアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に導入研修を行っている。実際の業務の中では具体的に指導し、育成を図っている。全体会議でも、理念や支援について議題にあげ、学び、全職員で考え方を共有している。また、経験や能力に応じ、社内外の研修に参加の機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入し、全国の同業者との交流の機会を設けている。また、市内の同業者とは困難事案を相談しあったり、意見交換をしている。相互訪問や運営推進会議への参加の提案もあるが、コロナ禍のため延期となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に見学してもらい、利用者と一緒に過ごしてもらったり、ホームでどんな生活を望んでいるのかを聞き取り、安心して入所して頂けるよう努めている。入所間もなくは職員が他利用者との間を仲介したり、常に寄り添い不安な気持ちを聞き、できるだけ本人の要望に応え、本人が安心できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所の相談の際、その時に家族が困っていることや、本人・家族が望む生活の形、入所に対しての不安などを聞き、それをホームの生活に反映できるよう支援方法の提案や意見交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談や見学の折、本人や家族の求めている支援や生活のあり方を確認し、他の施設やサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活を支援することを念頭に、職員はサポートにまわり、一緒に活動をしている。利用者が他利用者の見守りをしたり、家事のコツについて職員にアドバイスする姿が日常的に見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状や希望を家族に伝え、本人が望む生活を送るための意見交換を行っている。外出や一時帰宅、嗜好品の差し入れなど、家族の協力を仰ぎ、コロナ禍で訪問が難しい時は、電話をするなど、本人の気持ちの拠り所となってもらい、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況をみながら、友人・知人の訪問や差し入れ等があり、訪問の自粛をお願いしている時は、電話でのやり取りをしている。また、入所以前から行っていたスーパーへ買い物に出たり、ご自宅近くの馴染みの道を散歩したりもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者自らが他利用者のできないことを手助けしたり、声をかけたりしている。職員は利用者の関係性をみて、近くに座って頂いたり、話の仲介をして関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居前に、移行するサービス事業所と電話で打ち合わせたり、情報提供書のやりとりを行い、スムーズな移行に努めている。ただし、この一年は他事業所への転所はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関りの中で、本人の思いを知り、職員間で情報共有することで希望に添った支援ができるよう努めている。また、希望の表出が困難な場合は、これまでの生活や希望をもとに、本人の思いを推し量っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談の際に、本人や家族から聞き取りを行っている。また、入所後はスタッフ一人ひとりが本人との関りの中で話を聞き、それを職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが、利用者の現状を把握し、日報に記録すると共に、変化の見られた時は、申し送りノート、ヒヤリハット、口頭などで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を把握し、家族にも意見を仰いであうで、それに添った生活が送れるよう、法人・職員が話し合い、時には主治医の意見も聞きながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報を作成し、本人の一日の様子を記録している。状態変化があった時は、日報に記録するとともに、連絡ノート、口頭連絡等で情報の共有を図っている。そのうえで、支援方法の変更や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況に合わせ、買い物や外出等に対応している。また、希望に応じて、訪問歯科や理美容の利用ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに地域住民の為に施設である共生ステーションや保育園などがあり、散歩を通じて近所に高齢者グループホームがあることを知ってもらったり、スーパー、コンビニでは買い物を通して利用者への理解を深めてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に当施設に協力医があることと、今までのかかりつけ医に継続してかかることも可能であることを説明している。現在は、全員が協力医の往診を受けている。必要な時は、専門医の受診にも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態やその変化について相談し、アドバイスを受けている。そのうえで必要があれば、協力医の往診をうけたり、専門医を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に対して情報提供を行っている。病状について家族から情報を得るとともに、退院の見通しについて直接病院関係者ともやり取りし、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の支援のあり方や出来ない事を説明している。日々の状態を随時家族に伝え、変化が見られた時は、早期に説明を行っている。実際に重度化した場合は、家族や主治医を交えて話し合い、方針を決定している。その後は、家族と連絡を密にし、状態変化のみられる都度、本人や家族の意向を確認し、支援のあり方を決定し、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備え、各自が把握に努め、職員同士で確認し合っている。実際に起こる事が考えられる事案に関しては、その時々に対応策を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、職員の動きを確認するとともに、自立度の高い利用者は自ら避難できるよう、動線や避難場所の確認をしている。地域の訓練が行われる際は、利用者と共に参加し、地域の方々に事業所を認識してもらう機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援の都度、それぞれが理解できる言葉を選び、意思の確認を行い、了承を得てから支援にあたっている。また、プライバシーの軽視は虐待であるという観念を持ち、職員間で注意し合いながら保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明と同意を基本とし、本人が話しやすい雰囲気作りや、それぞれにあった、自己決定しやすい聞き方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの基本的な生活スタイルを把握したうえで、その日の体調や気分を考慮し、できるだけ本人の希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりを大切に、服装や髪型などを本人が選択できるように、選択方法や声かけを工夫している。髭剃りを失念していたり、髪型が乱れているときは、鏡の前に誘い、本人が気付けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段はある程度食材が決まっているものの、それを使ってどのようなメニューにするか、利用者とスタッフが一緒に考え、一緒に調理を行っている。同じような食材でも、味を変えたり、調理方法を変えるなど工夫してメニューに変化をもたせている。日、月曜日は決まった食材がない為、希望のメニューを聞き、食材の買い出しをしたり、店頭で食材を選んでからメニューを決める時もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に食事量や水分量を記録し、把握している。食事量が低下している時は、形態や食材、味付け等の見直しを行い、摂取量の確保に努めている。また、水分については、本人の好みに合わせ提供する物を変えたり、温度を変えたりし、確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨きや義歯洗浄を促している。本人の力では十分に行えない時は、職員が手伝っている。特に寝る前の口腔ケアは念入りに行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄間隔や、尿意・便意の有無を把握し、トイレに誘導したり、声掛けしたりしている。日中は全員がトイレでの排泄ができており、夜間は本人の歩行や排泄までの時間を考慮し、ポータブルトイレの使用をしている人もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着きがなくなったり、気分が落ち込む利用者もあり、水分量の確保やバランスのとれた献立、ヨーグルトの摂取など、予防に努めている。また、牛乳や冷水など、本人の体に合った対策を行ったり、かかりつけ医と相談し、本人にあった薬の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間の決まりはなく、本人の希望に添って、好きな時に入浴できる。毎日、ほぼ決まった時間に入浴する人が複数おり、お互いに声を掛け合い順番に入っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の表情や体の状態をみて、休息を促している。夜間、安眠できるよう、日向ぼっこや散歩、家事など、日中の活動を促し、居室の照明や室温等、それぞれに合わせて環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をスタッフルームに置き、職員が見ることができる。変更があった時は、申し送りノートでも情報を共有し、その後の変化を把握できるようにしている。服薬は職員二人でも見守り、利用者それぞれに適した方法で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活の一員として居場所を感じられるよう努めている。好みの嗜好品を楽しんだり、歌を歌ったり、散歩が好きな人は近所を歩くなど、それぞれが思い思いの形で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍前まで参加していた体操教室や地域行事は、中止されている等の理由から、まだ参加できない状況が続いているが、日常的にはコロナの情勢をみて、買い物や散歩などに出かけている。また、コロナの感染状況が一時落ち着いた時には、京都や居酒屋、ケーキバイキングなど、好みに合わせて外出することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、お小遣いを預かり、買い物や喫茶店等に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかかけたい人の電話番号を持ち、好きな時にかけている。自分では難しい方は、職員が橋渡しを行い架電している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には極力物を置かず、動きやすい空間づくりをしている。季節の花や、利用者の写真や作品を飾り、和やかな雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子が所々に置いてあり、好きな場所で自由に過ごすことができる。ユニットを問わず行き来でき、気の合う利用者同士、好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具をおき、本人の作品を飾るなど、その人らしい部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりを設置し、居室内は動線を考えて家具を配置することで、本人が今ある能力を活かして生活できる環境作りをしている。		